



田老町漁協、いわて生協、元村こどもさんさ愛好会から、総勢100人が参加。35年の産直取引を通じて培った信頼関係をさらに深め、力を合わせて復興に取り組むことを確認した。

「田老町漁協を励ます会」を開催

いわて生協

市街地のほとんどを津波で流された宮古市田老地区。

ここで活動する田老町漁協も、ほぼすべての漁業生産施設を失った。

しかし今、いわて生協と共に育ててきた、産直アイコープ「真崎わかめ」の復興に取り組んでいる。

**総勢100人が集結、
35年の歴史を確認**

10月22日（土）、いわて生協は、岩手県宮古市の田老町漁協で「田老町漁協を励ます会」を開催した。

宮古市田老地区は、高さ10m、幅2.4kmの大型堤防で知られる防災の街だ。だが、3月11日の震災ではそれを乗り越える津波が街に押し寄せ、約1、500世帯のうち、1、000戸を超える家屋が損壊し、死者・行方不明者は184人に及んだ。

田老町漁協でもわかめ加工場の工場長が亡くなったほか、組合員とその家族87人が犠牲となった。963隻あった漁船も、残ったのはわずか50隻足らず。7カ所あった漁港の堤防や岸壁が破壊されたことで、本部すぐそばのわかめの加工場をはじめ、魚市場や製氷工場、こんぶ、あわびの養殖施設など、多くの漁業生産施設を失った。

この日、生協本部近くの大型店「ペルフ牧野林」に集まった、岩手郡コープと盛岡中央コープの組合員は、朝8時に大型バスで出発。3時間かけて田老町漁協に到着すると、ここで宮古コープの組合員と合流。いわて生協理事長の飯塚明彦さん、専務理事の菊地靖さん、店舗の水産部門マネジャー、水産のバイヤーら役員も加



会場を和ませた、岩手郡コープ参加者による寸劇。田老町漁協の「真崎わかめ」のおいしさをユーモラスにアピール。

わつて、生協からは計49人の参加となった。さらに、この日は滝沢村で活動する「元村こどもさんさ愛好会」の子どもたちも加わり、田老町漁協からの参加者と合わせて、総勢100人を超えるイベントとなった。

施設のほとんどを流され、 ゼロからの出発

11時から始まった「田老町漁協を励ます会」では、まず、いわて生協の飯塚理事長が、「復興には大変な時間がかかりませんが、緊張感を持って取り組んでいきます。田老町漁協といわて生協の歴史の中で培った信頼と協同の力を信じて、一層信頼関係を深めていきます」と、わかめの取引に始まる、両者の35年の歴史に触れながらあいさつ。田老町漁協組合長の小林昭榮さんは、

※ いわて生協では県内を16の地区に分け、それぞれを「〇〇コープ」と名付けている。岩手郡コープと盛岡中央コープはそれぞれ岩手県の西、内陸部で活動し、宮古コープは津波で被災した宮古市や沿岸部、周辺の市町村を活動エリアにしている。

